

| 教科   | 科目    | 単位数 | 学年 | 集団      |
|------|-------|-----|----|---------|
| 地理歴史 | 世界史探究 | 4   | 3  | 総合探究科文系 |

| 使用教科書                                       | 副教材等   |
|---|--|
| 詳説世界史（山川出版社）<br>地歴高等地図 ー現代世界とその歴史的背景ー（帝国書院） | ニューステージ世界史詳覧（浜島書店）、世界史重要語句CheckList（啓隆社）、新世界史研究ノート標準編（啓隆社） |

| 科目の目標   |
|---|
| <p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵かん養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p> |

| 評価の観点とその趣旨  |  |
|---|--|
| ①知識・技能  | 世界の歴史について基本的な事項を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して読み取ったり図表にまとめたりしている。 |
| ②思考・判断・表現   | 世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や現代社会の特質を多面的・多角的に考察し国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現することができる。              |
| ③主体的に学習に取り組む態度  | 世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとしている。                        |
| 評価方法  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・知識・技能 定期試験、小テスト</li> <li>・思考・判断・表現 ワークシート、ノート、定期試験、小テスト</li> <li>・主体的に学習に取り組む態度 課題や提出物への取り組み状況、ペア活動やグループ活動の姿勢、授業への取り組み状況</li> </ul> |  |

| 学習計画 |  |   |   |       |   |   |
|------|--|---|---|-------|---|---|
| 月    | 単元名  | 使用教科書項目   | 単元や題材などの内容のまとまりごとの学習目標  | 評価の観点 |   |   |
|      |  |   |   | ①     | ② | ③ |
| 4    | 第II部 諸地域の交流・再編<br>第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 | 1 アラブの大征服とイスラーム政権の成立<br>2 ヨーロッパ世界の形成                                  | 西アジアと地中海周辺の諸国家、イスラームの成立とこれを基盤とした国家の形成などを基に、西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解する。西アジアと地中海周辺の諸国家の社会や文化の特色、イスラームを基盤とした国家の特徴などを主体的に多面的・多角的に考察し、表現することができる。 | ○     | ○ | ○ |
|      | 第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向                      | 1 イスラーム教の諸地域への伝播<br>2 西アジアの動向   | 西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播を基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解する。諸地域へのイスラームの拡大の要因などを主体的に多面的・多角的に考察し、表現することができる。                             | ○     | ○ | ○ |
| 5    | 第7章<br>ヨーロッパ世界の変容と展開                       | 1 西ヨーロッパの封建社会とその展開<br>2 東ヨーロッパ世界の展開<br>3 西ヨーロッパ世界の変容<br>4 西ヨーロッパの中世文化 | ヨーロッパ封建社会とその展開、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解し、ヨーロッパの社会や文化の特色、などを主体的に多面的・多角的に考察し、表現することができる。  | ○     | ○ | ○ |
|      | 第8章<br>東アジア世界の展開とモンゴル帝国                    | 1 アジア諸地域の自立化と宋<br>2 モンゴルの大帝国  | 宋の社会とモンゴル帝国の拡大などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解し、中国社会の特徴やモンゴル帝国が果たした役割などを主体的に多面的・多角的に考察し、表現することができる。                                     | ○     | ○ | ○ |

|    |                                      |   |  |   |   |   |
|----|--------------------------------------|---|--|---|---|---|
| 6  | 第9章<br>大交易・大交流の時代                    | 1 アジア交易世界の興隆<br>2 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容  | アジア海域での交易の興隆、明と日本・朝鮮の動向、スペインとポルトガルの活動などを基に、アジア海域での交易の特徴、ユーラシアとアメリカ大陸間の交易の特徴とアメリカ大陸の変容などを主体的に多面的・多角的に考察し、表現することができる。  | ○ | ○ | ○ |
|    | 第10章<br>アジアの諸帝国の繁栄                   | 1 オスマン帝国とサファヴィー朝<br>2 ムガル帝国の興隆<br>3 清代の中国と隣接諸地域   | 西アジアや南アジアの諸帝国、清と日本・朝鮮などの動向を基に、アジア諸地域の特徴を構造的に理解し、諸帝国の統治の特徴、アジア諸地域の経済と社会や文化の特色、日本の対外関係の特徴などを主体的に多面的・多角的に考察し、表現することができる。  | ○ | ○ | ○ |
| 7  | 第11章<br>近世ヨーロッパ世界の動向                 | 1 ルネサンス<br>2 宗教改革<br>3 主権国家体制の成立<br>4 オランダ・イギリス・フランスの台頭<br>5 北欧・東欧の動向<br>6 科学革命と啓蒙思想    | 宗教改革とヨーロッパ諸国の抗争、大西洋三角貿易の展開、科学革命と啓蒙思想などを基に、主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解し、宗教改革の意義、大西洋両岸諸地域の経済的連関の特徴、主権国家の特徴と経済活動との関連、ヨーロッパの社会や文化の特色などを主体的に多面的・多角的に考察し、表現することができる。            | ○ | ○ | ○ |
| 9  | 第Ⅲ部 諸地域の結合・変容<br>第12章<br>産業革命と環大西洋革命 | 1 産業革命 2 アメリカ合衆国の独立と発展<br>3 フランス革命とナポレオンの支配<br>4 中南米諸国の独立                               | 産業革命や環大西洋革命の意味や意義、自由主義とナショナリズムの特徴、南北アメリカ大陸の変容などを多主体的に面的・多角的に考察し、表現することができる。  | ○ | ○ | ○ |
|    | 第13章<br>イギリスの優位と欧米国民国家の形成            | 1 ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動<br>2 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成<br>3 アメリカ合衆国の発展<br>4 19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄 | 自由主義とナショナリズム、南北戦争の展開などを基に、国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に理解し、その特徴などを主体的に多面的・多角的に考察し、表現することができる。  | ○ | ○ | ○ |
| 10 | 第14章<br>アジア諸地域の動揺                    | 1 西アジア地域の変容<br>2 南アジア・東南アジアの植民地化<br>3 東アジアの激動   | アジア諸国の植民地化と諸改革などを基に、世界市場の形成とアジア諸国の変容を構造的に理解し、地域的な特徴などを主体的に多面的・多角的に考察し、表現することができる。  | ○ | ○ | ○ |
|    | 第15章<br>帝国主義とアジアの民族運動                | 1 第2次産業革命と帝国主義<br>2 列強の世界分割と列強体制の二分化<br>3 アジア諸国の変革と民族運動                                 | 第二次産業革命と帝国主義諸国の抗争、アジア諸国の変革などを基に、世界分割の進展とナショナリズムの高まりを構造的に理解し、世界経済の構造的な変化、列強の帝国主義政策の共通点と相違点、アジア諸国のナショナリズムの特徴などを主体的に多面的・多角的に考察し、表現することができる。                                   | ○ | ○ | ○ |
| 11 | 第16章<br>第一次世界大戦と世界の変容                | 1 第一次世界大戦とロシア革命<br>2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国<br>3 アジア・アフリカ地域の民族運動                                | 第一次世界大戦とロシア革命、ヴェルサイユ・ワシントン体制の形成、アメリカ合衆国の台頭、アジア・アフリカの動向とナショナリズムなどを基に、第一次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解し、第一次世界大戦後の国際協調主義の性格、アメリカ合衆国の台頭の要因、アジア・アフリカのナショナリズムの性格などを主体的に多面的・多角的に考察し、表現する。 | ○ | ○ | ○ |
| 12 | 第17章<br>第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成           | 1 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊<br>2 第二次世界大戦<br>3 新しい国際秩序の形成   | 世界恐慌に対する諸国家の対応策の共通点と相違点、ファシズムの特徴、第二次世界大戦に向かう国際関係の変化の要因、第二次世界大戦中の連合国による戦後構想と戦後の国際秩序との関連、アジア諸国の独立の地域的な特徴などを主体的に多面的・多角的に考察し、表現することができる。                                       | ○ | ○ | ○ |
| 1  | 第Ⅳ部 地球世界の課題<br>第18章<br>冷戦と第三世界の台頭    | 1 冷戦の展開<br>2 第三世界の台頭とキューバ危機<br>3 冷戦体制の動揺  | 集団安全保障と冷戦の展開、アジア・アフリカ諸国の独立と地域連携の動き、平和共存と多極化の進展などを基に、紛争解決の取組と課題を理解し、国際連盟と国際連合との共通点と相違点、紛争と経済や社会の変化との関連性などを主体的に多面的・多角的に考察し、表現することができる。                                       | ○ | ○ | ○ |
| 2  | 第19章<br>冷戦の終結と今日の世界                  | 1 産業構造の変容<br>2 冷戦の終結<br>3 今日の世界<br>4 現代文明の諸相  | 冷戦の終結と地域紛争の頻発などを基に、紛争解決の取組と課題を理解し、冷戦下の紛争解決と冷戦後の紛争解決との共通点と相違点、紛争と経済や社会の変化との関連性などを主体的に多面的・多角的に考察し、表現することができる。  | ○ | ○ | ○ |
|    | 地球世界の課題の探究                           |   | 紛争解決や共生、経済格差の是正や経済発展、科学技術の発展や文化の変容などについて、地球世界の課題の形成に関わる世界の歴史について主体的に多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。   |   | ○ | ○ |